

【小学校 外国語活動・外国語科】

単元の指導計画における観点別評価(評定に用いる評価)の位置付け〈例〉

評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><知識> ○○について理解している。</p> <p><技能> △△について○○を用いて、□□を～～する技能を身に付けている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 【知技】 記 ○○の理解 ○○の正しい活用 </div>	<p>☆☆のために、△△について、簡単な語句や基本的な表現を用いて□□を～～している。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 【思判表】 記 目的・場面・状況のある言語活動において、自分の思いや考えを適切に表現したり、理解したりしている状況 </div>	<p>☆☆のために、△△について、簡単な語句や基本的な表現を用いて□□を～～しようとしている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 【主体態】 記 他者へ配慮しながら、課題解決しようとする態度 </div>
<p>・「書くこと」においてはアルファベットの活字体の大文字、小文字を書く技能を身に付けている状況の評価する。</p> <p>・「読むこと」は当該単元で扱うアルファベットの活字体を識別したり、その読み方を発音したりする技能を身に付けている状況の評価する。</p>	<p>・「話すこと[やり取り]」では当該単元で学習した語句や表現に関わらず、既習事項も含めて適切に伝え合っている状況の評価する。</p>	<p>・言語活動への取組に関して見通しを立てたり振り返りたりして自らの学習を自覚的にとらえている状況については、特定の領域・単元ではなく、年間を通じて評価する。</p>

※○○は言語材料、△△は事柄・話題、□□は内容、☆☆は目的

はばたく群馬の指導プランⅡ 単元のつくり方

過程と基本的な学習活動

1 単元の課題を把握する。

◇教材や教科書の題材に触れる。

課題提示型

- ◇単元の課題に出合う。(教師が提示する。)
- ◇活動の「目的・場面・状況」を確認する。

課題発見型

- ◇教師が提示する「場面・状況」を捉える。
- ◇単元の課題を発見する。
→単元の課題を解決する「目的」をもつ。

【単元の課題】

〈必要感をもって思いや考えを伝え合う活動〉

- ◇「試しの活動」として単元の課題に取り組む。
- ※外国語活動では、既習事項が少ないため、行わない場合もある。
- ※中学校では「CAN-DOリスト」との整合性を図る。

2 単元の課題の解決に向け、単位時間ごとに追究する。

単位時間

【めあてをつかむ】

- A** 「単元の課題の解決」に向けて、新出言語材料に触れる。
- B** 新出言語材料を活用する言語活動に取り組む。
- C** 教材にあるまとめの活動や、教科書の本文理解など、本文に関する言語活動に取り組む。

【振り返り】

※言語面・内容面

単位時間

単位時間

単位時間

3 単元の課題を解決する。

- ◇「追究する」過程で習得した知識及び技能や整理した情報、考えなどを活用し、単元の課題に示された伝え合う活動に取り組む。
- ◇単元全体の学習の振り返りをする。

単元全体の振り返り

<例> 評価の位置付け

知識・技能	思考・判断・表現	主体的…態度
「Small Talk」や「試しの活動」において、児童の学習状況を把握します。		
単位時間 ○各単位時間で記録に残す評価を行うことはありません。 ○ C 教科書の活用については、「ねらい」によって、評価の対象は変わります。		
A	B 【知技】 記	C 【知技】 記 【思判表】 記 【主体態】 記
単位時間		
単位時間		
単位時間		
【知技】 記	【思判表】 記	【主体態】 記
【知技】 単元の課題解決に迫る言語活動において、【知技】を評価する場合、本単元で学習した言語材料にとどまらず、既習の言語材料も含めて、正しく活用している状況の評価します。		

「思考・判断・表現」は目的、場面、状況のある言語活動の中で評価されるため、はばプラⅡで示す単元の課題を設定した問題解決的な授業が不可欠です。

「指導に生かす評価」(学習状況を見取る)

全ての単位時間において、「ねらい」に即し、児童の学習状況をみとり、必要があれば、教師が指導、支援するなどして、その改善を図ります。

「指導と評価の一体化」の充実

「評定に用いる評価」(評価したことを記録に残す) = 記

・指導要領P157「2内容[第5学年及び第6学年]」の[知識・技能]における「(1)英語の特徴やきまりに関する事項」に記されている「音声」の特徴を捉えて話すことについては、それ自体を観点別評価とはしないが、ALTやデジタル教材を活用するなど、適切に指導することとします。

・外国語活動・外国語科では指導した結果として、慣れ親しんだり、できるようになったりしたことを評価するため、単元の後半に評価することが多くなります。